

【2023 年度入学生】

常磐大学における学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	2
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	2
人間科学部	3
心理学科	4
教育学科	5
（初等教育コース）	5
（中等教育コース）	6
現代社会学科	7
コミュニケーション学科	9
健康栄養学科	10
総合政策学部	11
経営学科	12
法律行政学科	13
総合政策学科	13
看護学部	15
看護学科	16

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の学則等に示された教育の理念・教育の方針・教育の目的等を理解して広く深い教養と知識を学んだ後、社会や地域に貢献するための社会適応力および社会活動力を身につけた人材を養成します。

1. 目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。（知識・理解、態度）
2. グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。（知識・理解、思考・判断、技能）
3. 集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。（思考・判断、態度）
4. プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。（知識・理解、態度）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学の学則等に示された教育の理念・教育の方針・教育の目的等と養成したい学生像に基づき、全学生を対象とする科目とそれぞれの学部・学科の教育目標にあわせた科目を2つの大きな柱として、それぞれの学部・学科に合わせたカリキュラムを編成します。

1. 現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身につけるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得するため、多様でかつ調和がとれた教養教育を実施する。
2. 国際共通語としての英語に焦点を当て、一人ひとりが段階的に学べるように英語科目を編成する。
3. 大学での学びの基礎として、「読む・聴く」「書く・語る・伝える」「調べる」といった基本技法、統計によりデータを的確に集めてまとめる手法、そして、コンピュータで情報を分かりやすく整理し表現するスキルが身につくための初年次教育を実施する。
4. 基礎・応用・発展を明確にするカリキュラム分類コードによる系統的な学習と、自由なカリキュラム構築による学際的な学習を実施する。
5. 問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。

ディプロマ・ポリシー

本学部は人間科学に基づく教養、基本的知識を駆使し、批判精神、倫理観、責任感をもって問題を発見し、その解決を図ることができる人材を養成します。同時に、各学科の専門性に基づく高度な専門的知識と応用能力を実践することによって国際化する社会の各分野で活動してその進展と福祉の増進に貢献できる人材を養成します。

1. 人文科学、社会科学、自然科学の諸領域にわたる広く深い教養と基礎的な知識を身につけ、各学科の専門性および人間科学の枠組みで総合的に理解している。(知識・理解)
2. 人間に関わる諸問題、とりわけ、心理や行動の発達、教育、社会や福祉、コミュニケーション、健康と栄養に関わる諸問題を発見し、批判的に考え、多面的な思考と分析によつて的確な判断を下すことができる。(思考・判断)
3. 人間科学に基づく高い倫理観をもち、自らの社会的責任を理解し、自らが率先して行動する態度を身につけている。(態度)
4. 各学科の専門性に基づく高度な専門的知識と応用・実践能力を修得し、課題解決のための具体的方策を提示し、これを実行できる技能を身につけており、それによって社会に貢献することができる。(知識・理解、思考・判断、技能)

カリキュラム・ポリシー

本学部のディプロマ・ポリシーに明示した学修成果を実現するために、以下のような内容、方法、評価方法での教育課程を編成します。

1. 教育内容

- (1) 広い視野から人間や人間社会に関する理解の基礎を修得するため、学部基本科目を編成し、学部共通科目内に配置する。
- (2) 心理や行動の発達、教育、社会や福祉、コミュニケーション、健康と栄養に関わる専門的知識を修得するため、心理学科、教育学科、現代社会学科、コミュニケーション学科、健康栄養学科に、それぞれ学科専攻科目を編成する。
- (3) 各学科の専門性に基づく応用・実践能力を修得するため、各学科の学科専攻科目内に演習関連科目および実習科目を配置する。
- (4) 学部基本科目と学科専攻科目を通して修得した、人間科学および各学科の専門性に基づく基本的・専門的知識を、学生個々人の興味・関心に応じて応用・発展させ、より高度な専門的知識と応用能力を修得させるため、卒業研究に関する科目を編成し、少人数制のゼミナール・卒業論文を、それぞれ3年次・4年次に配置する。

2. 教育方法

- (1) 主体的・自律的な学修を促進するために、学科専攻科目ではPBLやグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- (2) 協働のためのグループスキルを学修するため、少人数でのグループ学修を低年次から実施する。
- (3) ICTの活用能力を育成するため、eラーニングシステムなどを学修に積極的に利用する。

3. 評価方法

ディプロマ・ポリシーに明示した学修成果の評価として、以下を用いる。

- (1) 形成的評価として、学修調査やカリキュラムルーブリックを活用して評価する。
- (2) 4年間の総括的な学修成果について、卒業研究の成果、各種資格試験の結果などを用いて評価する。

ディプロマ・ポリシー

多くの人が様々な心理的な問題を抱えて社会に適応しにくくなっていたり、自分のもっている心理的な能力を十分に発揮できなくなっていたりする現代、人間の感覚や知覚、記憶、学習、思考、性格、認知、発達など、いわゆる「心」といわれる人間の様々な働きを科学的に理解し、さらに理解したことを駆使して、人間が社会のなかで、より、自己を実現できるようになることに寄与することのできる人材を養成します。

1. 人間にアプローチするための科学的な心理学的方法を理解することができる。(知識・理解)
2. 科学的な心理学的方法を駆使して、人間の諸行動や諸現象に関する基本的な心理的過程やメカニズムを理解することができる。(知識・理解、技能)
3. 人間の不適応行動、問題行動および病理等の心理的過程やメカニズム、および諸能力を発揮する方略を理解することができる。(思考・判断)
4. 前記各項の学修事項を駆使して、総合的に人間のよりよい社会的適応および諸能力の発揮に実践的に寄与することができる。(態度)

カリキュラム・ポリシー

1. 編成方針

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた人材養成の目的を達成するために、人間の「心」に科学的にアプローチしてこれをよく理解し、そしてその知識を適切に用いてさまざまな問題に実践的に取り組んで解決を目指すことができ、さらにそれらについて他者にも的確に説明することが出来るようになることを目指して、単に知識を身につけるだけでなく、研究法および実験や実習科目を通じて、実践的に心理学的な問題に取り組む姿勢を身につけるためのカリキュラムを体系的に編成します。

2. 実施方針

- (1) 大学で学ぶための基本的知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。
- (2) 心理学の学びの導入として、「心理学概論」、「心理学史」などの授業を通して、幅広い領域を俯瞰し問題意識を高めるための教育を行います。
- (3) 科学的な心理学の方法を徹底的に身につけるために、「心理学実験」「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」などの授業で、問題意識を高めると同時に、問題解決のためのスキルを養う教育を行います。
- (4) 人間の基本的な心理的過程やそれらが複合して起こる諸行動、人間関係にみられる諸現象を理解するために、「知覚・認知心理学（知覚）」「知覚・認知心理学（認知）」「学習・言語心理学」「発達心理学」などの基礎領域科目の授業を通して、人間の感情・思考判断の基盤となる知識を深める教育を行います。同時に、知識の体系をなす先行研究の方法・手続、成果にいたるプロセス、方法論を意識した教育を行います。
- (5) 心理学基礎領域科目で得られた知識や理論、技能をもとに、基本的な科目から応用・発展的な科目まで幅広い領域の授業を通して、さらに知識を深める教育を行います。自身の専門領域にかかわる問題意識を深めるとともに、知識の体系をなす先行研究の方法・手続、成果にいたるプロセス、方法論を意識した教育を行います。
- (6) 臨床心理学領域（大学における公認心理師となるために必要な科目含む）では、不適応行動、問題行動および病理等の理解とその解決ならびに諸能力の発揮等に関する科学的な理解を促進するために、「臨床心理学概論」のほか「福祉心理学」、「精神疾患とその治療」などの発展的な科目の授業において、実践領域の理解を深める教育を行います。同時に、知識の体系をなす先行研究の方法・

手続、成果にいたるプロセス、方法論を意識した教育を行います。

(7) 臨床心理学領域（大学における公認心理師となるために必要な科目含む）では、不適応行動、問題行動および病理等の理解とその解決ならびに諸能力の発揮ができるよう「心理学的支援法」「心理実習」などの発展的な科目の授業において、実践的な内容を取り入れた教育を行います。

(8) 卒業研究のうち「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、専門領域の知識および卒業研究の基礎的スキルを深めるために、ディスカッションやグループワークを取り入れた授業を行います。また「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」では、学びの集大成として、それまでに得た知識を実践的に活かせる力を身につけるために、研究テーマを自身で設定し、問題解決および実践を意識した教育を行います。

教育学科

（初等教育コース）

ディプロマ・ポリシー

教育活動を担うにあたり必要となる基本的資質・素養、および高度専門職としての教育者に求められる力量を身につけ、教育をめぐる現代的課題に対応し、実践的指導力をもって幼児・児童の成長を支援する公立・私立の幼稚園・小学校の教員や教育に関する十分な知識と技能により解決策を見出す自治体・民間機関等の職員等を養成します。

1. 教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。（知識・理解、態度）
2. 幼児・児童の心身の発達、いじめの実際、教育相談、幼児・児童の指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、幼児・児童を理解し指導する力を身につけている。（知識・理解、態度）
3. 特別な配慮を必要とする幼児・児童を理解し支援する力を身につけている。（技能）
4. 幼稚園教育要領および学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、領域・教科の詳細等に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を伴う授業力を身につけている。（知識・理解、技能）
5. 学級経営を理解し、学年や学級を経営する力を身につけている。（思考・判断）
6. 学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。（思考・判断）

カリキュラム・ポリシー

1. 編成方針

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた人材養成の目的を達成するために、教育活動を担うにあたり必要となる基本的資質・素養、および高度専門職としての教育者に求められる力量の修得に向け、また幼稚園教諭一種免許状および小学校教諭一種免許状の取得要件を満たすためのカリキュラムを体系的に編成します。

2. 実施方針

- (1) 学部共通科目では、大学で学ぶための基本的知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。
- (2) 学科共通科目では、教員や自治体・民間機関等の職員等、社会におけるさまざまな教育活動の担い手となることを見据え、「教育者への道Ⅰ・Ⅱ」「AI・データサイエンスと教育」「地域学校協働論」等の授業を通して、現実の課題に対応するための思考力や表現力を高める教育を行います。

- (3) 教育の基礎的理解に関する科目等では、教育の基礎的な理解を身につけるとともに、幼児・児童への働きかけに必要な知識や技能を身につけるために、「教育学概論」「教職入門」等の授業を通して、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行います。
- (4) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目等では、道徳教育・教育相談等に必要な知識や技能を身につけるために、「総合的な学習の時間の指導法」「生徒指導・教育相談」等の授業を通して、多面的多角的な考察を取り入れた教育を行います。
- (5) 領域に関する専門的事項、教科に関する専門的事項では、各領域・教科の専門的な内容を学び、専門的な知識を身につけるために、「幼児と言葉」「初等国語（書写を含む）」等の授業を通して、問題解決・探求型の教育を行います。
- (6) 保育内容の指導法、各教科の指導法等では、各領域・教科の専門的な知識を基盤として各領域・教科ごとの教え方を学び、実践的指導力を身につけるために、「保育内容指導法（言葉）」「初等国語科教育法」等の授業において、ICTの活用や模擬保育・模擬授業に重点を置いた教育を行います。
- (7) 教育実践に関する科目等では、実習園・実習校での教育実習を行うとともに、教員採用試験等に備えて教育に関する知識の定着を図るために、「学校インターンシップA・B・C」「初等教育実習（事前事後指導を含む）」等の授業を通して、実際の教育現場で経験を積むことに重点を置いた教育を行います。
- (8) 卒業研究のうち、「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、教育学の学びで身につけた資質・能力の有機的結合を深化させ、また「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」では、4年間の学びの集大成として、自分の専門領域に関する理解を深め、教育をめぐる現代的課題に対応する力を身につけるためにゼミナールに所属しゼミナール形式による教育を行います。

（中等教育コース）

ディプロマ・ポリシー

教育活動を担うにあたり必要となる基本的資質・素養、および高度専門職としての教育者に求められる力量を身につけ、教育をめぐる現代的課題に対応し、実践的指導力をもって生徒たちの成長を支援する公立・私立の中学校・中等教育学校・高等学校の教員や教育に関する十分な知識と技能により解決策を見出す自治体・民間機関等の職員等を養成します。

1. 教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。（知識・理解、態度）
2. 生徒の心身の発達、いじめの実際、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。（知識・理解、態度）
3. 特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。（技能）
4. 学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を伴う授業力を身につけている。（知識・理解、技能）
5. 学級経営を理解し、学年や学級を経営する力を身につけている。（思考・判断）
6. 学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。（思考・判断）

カリキュラム・ポリシー

1. 編成方針

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた人材養成の目的を達成するために、教育活動を担う

にあたり必要となる基本的資質・素養、および高度専門職としての教育者に求められる力量の修得に向け、また中学校教諭一種免許状（社会）および高等学校教諭一種免許状（地理歴史）の取得要件を満たすためのカリキュラムを体系的に編成します。

2. 実施方針

- (1) 学部共通科目では、大学で学ぶための基本的知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。
- (2) 学科共通科目では、教員や自治体・民間機関等の職員等、社会におけるさまざまな教育活動の担い手となることを見据え、「教育者への道Ⅰ・Ⅱ」「AI・データサイエンスと教育」「地域学校協働論」等の授業を通して、現実の課題に対応するための思考力や表現力を高める教育を行います。
- (3) 教育の基礎的理解に関する科目等では、教育の基礎的な理解を身につけるとともに、生徒への働きかけに必要な知識や技能を身につけるために、「教育学概論」「教職入門」等の授業を通して、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行います。
- (4) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目等では、道徳教育・教育相談等に必要な知識や技能を身につけるために、「総合的な学習の時間の指導法」「生徒指導・教育相談」等の授業を通して、多面的多角的な考察を取り入れた教育を行います。
- (5) 教科に関する専門的事項では、社会科・地理歴史科の専門的な内容を学び、専門的な知識を身につけるために、「日本史Ⅰ・Ⅱ」「人文地理学Ⅰ・Ⅱ」等の授業を通して、問題解決・探求型の教育を行います。
- (6) 各教科の指導法等では、社会科・地理歴史科の専門的な知識を基盤として社会科・地理歴史科の教え方を学び、実践的指導力を身につけるために、「中等社会科・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ」等の授業において、ICTの活用や模擬授業に重点を置いた教育を行います。
- (7) 教育実践に関する科目等では、実習校での教育実習を行うとともに、教員採用試験等に備えて教育に関する知識の定着を図るために、「学校インターンシップA・B・C」「中等教育実習（事前事後指導を含む）」等の授業を通して、実際の教育現場で経験を積むことに重点を置いた教育を行います。
- (8) 卒業研究のうち、「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、教育学の学びで身につけた資質・能力の有機的結合を深化させ、また「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」では、4年間の学びの集大成として、自分の専門領域に関する理解を深め、教育をめぐる現代的課題に対応する力を身につけるためにゼミナールに所属しゼミナール形式による教育を行います。

現代社会学科

ディプロマ・ポリシー

現代社会を構成する様々な人間と社会を幅広く理解した上で社会現象を総合的に認識することができ、人間科学と社会科学の視点を活かしながら、倫理観に基づく健全な批判精神を発揮して同世代の問題に主体的に取り組み福祉社会を創造することができる人材を養成します。

1. 様々な社会についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身につけている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができている。(知識・理解)
2. 現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。(思考・判断)
3. 現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身

につけている。(態度)

4. 現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)

カリキュラム・ポリシー

1. 編成方針

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた人材養成の目的を達成するために、知識の修得という側面だけでなく、実証的な研究方法の修得や地域社会をはじめとした実社会との関わりを重視し、現代社会を総合的に捉えることのできる能力の涵養を目指したカリキュラムを体系的に編成します。

2. 実施方針

- (1) 学部共通科目では、大学で学ぶための基本的知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。
- (2) 学科基本科目では、学科の学修の導入科目「現代社会論」によって現代社会の諸相を社会学的視点から俯瞰的に教授し、現代社会と社会学の基礎的理解を図ります。また、「社会学概論Ⅰ・Ⅱ」「社会学史」などの基礎社会学に係る講義科目および「社会学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「社会学応用演習」などの演習科目を通して、社会学を学ぶ上で要される基礎的知識と社会学的思考を段階的に習得する教育を展開します。
- (3) 学科専門科目の「方法論・データサイエンス領域」では、社会調査や社会統計学を基盤として社会学の方法論に関する能力の涵養を図ります。現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解く力を身につけるために、「社会調査法Ⅰ・Ⅱ」「社会調査法演習」「データサイエンス概論」「データサイエンス各論A・B」などの授業を通して、実証性を重視した実践的な社会調査教育およびデータサイエンス教育を展開します。
- (4) 学科専門科目の「家族・福祉社会領域」では、人間の生活の基礎を支える集団や制度に関する理解を図るため、「家族社会学」「産業・労働社会学」「社会保障」などの応用社会学や社会福祉学の科目群を設置し、自己の生きる社会の基礎的構造についての理解を深める教育を展開します。
- (5) 学科専門科目の「公共・地域社会領域」では、人間が他者と共存するために構築する公共性と共同空間としての地域社会の特性を理解するために、「地域社会学」「都市社会学」「農村社会学」「地域研究特講」「公共社会学」「テクノロジーの社会学」などの科目群を設置し、現代社会の諸相を公共性から再考し、問題意識の深化を促す教育を展開します。
- (6) 学科専門科目の「文化研究領域」では、「文化」の視点から現代社会を多面的に捉え、現代社会の多様性とそれへの対応について理解を深める教育を展開します。「文化社会学」「宗教社会学」などの応用社会学のみならず、「社会人類学」「民俗学」「都市地理学」「社会史」などの社会学関連科目も積極的に科目群に取り入れ、学問横断的に社会と文化についての学修を深めます。
- (7) 関連科目には、「法律学（国際法を含む）」「政治学（国際政治を含む）」など、現代社会を理解し、社会学の学びを深める上で、とくに関連する学問領域の基礎的科目を配置し、これらを学修することによって社会学の相対的位置づけを知り、併せて現代社会の多角的な理解を図ります。
- (8) 卒業研究のうち「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、自分の専門領域について理解を深め、現代社会の課題を多角的に見出し得るために、共同作業を取り入れた教育を行います。また、4年間の学びの集大成である「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」では、社会現象、現代社会の課題を多角的に見出すとともに、その課題の改善、解決の方策を考える力を身につけるために、集団討論を積極的に取り入れた教育を行います。

コミュニケーション学科

ディプロマ・ポリシー

本学科のコミュニケーション学は、人間や組織が考え感じたことを伝える側面と、受け取る側面とを分析的に探求する社会心理学、言語学、社会学などの学問領域と、人が表現したい内容を的確に表現する構想力とそれを支えるグラフィック技術、映像技術、プログラミング技術を探求する学問領域とが交差するところに成立しています。また、多様な文化や考え方、英語の構造、国際コミュニケーション手段としての英語を科学的に探求する学問領域では、言葉の背景にある文化や歴史を理解し、幅広い教養と国際感覚に裏付けされた英語コミュニケーション能力を身につけることができますようになってきました。在学中に修得した知識・技術を用いて、情報社会、国際社会の一員としての自分の立場や考え方を認識し、コミュニケーションに対して学問的な幅広い観点から考える態度を身につけ、得た情報を批判的に読み解き、自分の考えを説明することができる人材を養成します。

1. 情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心をもつことができる。(知識・理解、態度)
2. 日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技能)
3. 科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあっても、地域社会にあっても、企業にあっても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
4. 自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)

カリキュラム・ポリシー

1. 編成方針

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた人材養成の目的を達成するために、情報社会、国際社会におけるコミュニケーションの過程をコミュニケーション学に基づいて分析し、そこから得られた知見を現実社会で活用できる人材を育成するためのカリキュラムを体系的に編成します。

2. 実施方針

- (1) 学部共通科目では、大学で学ぶための基本的知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。
- (2) 学科基本科目では、まずはコミュニケーション学の基礎的な内容を身につけるために1年次配当科目を置きます。さらにコミュニケーション学の多様な研究領域を紹介することで、3年生以降の研究分野を学生自らが考えるために2年次配当科目を置きます。これらの授業を通して、コミュニケーション学に関する体系的かつ広範な専門知識や研究方法を身につけるための教育を行います。
- (3) コミュニケーション研究の基礎では、まずは学問としての対人関係やメディアに関わる基本的知識を身につけるための概論科目として1年次配当科目を置きます。さらに、より専門的な知識を身につけるための各論科目として2年次配当科目を置きます。最後に、学生自らが研究する方法を身につけるために3年次配当科目を置きます。これらの授業を通して、対人関係やメディアの観点からコミュニケーションの理解を深めるための教育を行います。
- (4) 文化の表現と発信では、まずは情報発信の基本となるデザインに関する基礎的な知識と技術を身につけるために1年次配当科目を置きます。さらに高度な情報発信が行えるような専門的な知識と技術を身につけるために2年次配当科目を置きます。最後に今まで学んだ知識と技術を用いたコン

- テンツを作成し、学生自らが情報発信を行うために3年次配当科目を置きます。これらの科目を通して、メディアを介した文化交流を実現するための情報発信に重点を置いた教育を行います。
- (5) 文化交流と言語コミュニケーションでは、まずは言葉による円滑なコミュニケーション技能や異文化理解に必要な知識や技能を身につけるために1年次配当科目を置きます。さらに国際感覚と日本語教育に関わる知識と技術を身につけるために2年次配当科目を置きます。最後に幅広い教養や日本語教師になるために必要な知識と技術を身につけるために3年次配当科目を置きます。これらの科目を通して、文化交流を実践するための言語運用能力の強化に重点を置いた教育を行います。
- (6) 英語と英語教育では、まずは英語圏での文化や歴史に関する知識を学ぶために1年次配当科目を置きます。さらに言語としての英語や実践的な英語コミュニケーション能力を養成するために2年次配当科目を置きます。これらの科目を通して、実践的な英語コミュニケーション能力の養成に重点を置いた教育を行います。
- (7) 卒業研究では、コミュニケーションを様々な視点から研究できるように、専門性の異なる教員のもとで少人数形式を取り入れた教育を行います。(1)から(6)で挙げた教育の内容をさらに専門的にした「ゼミナールⅠ・Ⅱ」、そして「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」では4年間の学修成果を論文または作品としてまとめるための教育を行います。

健康栄養学科

ディプロマ・ポリシー

21世紀の栄養ケア・マネジメントは、対象者個人の栄養状態、健康状態の把握はもちろんのこと、生活習慣全般を認識した対応と、他のスタッフとの連携（多職種協働）を取りながら一連のマネジメントを手がけ多角的な物事の判断によって、人間そのものを把握し受け止めることのできる能力が求められる。本学科では、対象者一人ひとりの問題発見からその解決を導くために、十分な基礎能力と幅広い知的バックグラウンドを有し、さらに高度な専門知識と対人コミュニケーション能力と共に生活習慣病対策の任務を担う者として、病気発生そのもののメカニズムを知る基礎力をつけ、生活習慣と病気の関係を十分に理解できる人材を養成します。

1. 栄養ケア・マネジメントの基本が“人間栄養”であることを理解している。(知識・理解)
2. 生命維持に関して、食物および栄養の意義を理解している。(知識・理解、思考・判断)
3. 生活習慣病予防の担い手として、コ・メディカル知識やコミュニケーション能力等を活かし、適正な栄養ケア・マネジメントができる。(思考・判断、技能、態度)
4. 豊かな教養と専門知識をもち、多職種協働の中で力を発揮できる。(思考・判断、技能、態度)

カリキュラム・ポリシー

1. 編成方針

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた人材養成の目的を達成するために、疾病にも関係する栄養ケア・マネジメントのプロフェッショナルリズム教育の立場から、職場における個々の対象者、あるいは協働作業者に接するため、教養・専門知識は勿論、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけるためのカリキュラムを編成します。

2. 実施方針

- (1) 学部共通科目では、大学で学ぶための基本的知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。
- (2) 学部共通科目および学科基本科目では、栄養学修得の基礎となる知識を確実に身につけるため

- に、1年次に生物系科目、化学系科目および生化学を必須とし、これらの授業を通して、栄養学の基盤的な知識となる生物・化学の理解に重点を置いた教育を行います。
- (3) 学科基本科目および学科専攻科目のうち、人体の健康と病気のことを学ぶために、「解剖生理学」「臨床医学Ⅰ・Ⅱ」「病理学」「基礎栄養学Ⅰ・Ⅱ」などの科目の授業を通して、健常時および疾病時の状態の理解に重点を置いた教育を行います。
 - (4) 学科基本科目のうち、社会・環境と健康、食べ物と健康では、健康・生命の管理の基礎となる栄養と食物の多面性の理解に重点を置いた教育を行います。
 - (5) 学科専攻科目に配置する講義科目では、管理栄養士の仕事内容や対象者との接し方を理解するために、「臨床栄養学Ⅰ～Ⅲ」および「公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ」などの科目の授業において、病院・福祉施設・保健所などの現職の管理栄養士を招き、人々の健康増進・疾病予防へ貢献するための意識づくりの機会を積極的に取り入れた教育を行います。
 - (6) 学科専攻科目に配置する実験実習科目および演習科目では、協調性、コミュニケーション能力を身につけるために、各分野の授業ならびに「臨床栄養臨地実習」「公衆栄養臨地実習」および「給食経営管理臨地実習」における学外施設での学修において、協働作業を積極的に取り入れた教育を行います。
 - (7) 学科専攻科目のうち「総合演習Ⅱ」、「管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ」などの科目では、管理栄養士国家試験に備えて、これらの科目の授業を通して、栄養ケア・マネジメントに関する専門知識の統合および実践力の定着を図ることに重点を置いた教育を行います。
 - (8) 卒業研究のうち「ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」では、プレゼンテーション能力を身につけるために、学会形式での公開発表会を取り入れた教育を行います。

総合政策学部

ディプロマ・ポリシー

幅広い観点からの知識を蓄え、現代社会の諸問題に対して、正當に評価できる能力と、解決策を導き提言・提案できる能力を有し、グローバル化する社会に貢献できる実践的能力を備えた人材を養成します。

1. 広範な教養と知識を身につけ、社会での活用方策を創造することができる。(知識・理解)
2. 変容する社会の諸問題を柔軟な思考で捉え、多面的な視野で判断し、課題発見、課題解決に取り組むことができる。(思考・判断)
3. 諸分野の協働が求められる社会の中で、自らの役割を認識し、自主的に活動する真摯な姿勢を身につけている。(態度)
4. 専門的知識を統合的に応用し、政策の立案・提言により社会に貢献できる実践的能力を備えている。(技能)

カリキュラム・ポリシー

本学部のディプロマ・ポリシーに明示した学修成果を実現するために、以下のような内容、方法、評価方法での教育課程を編成します。

1. 教育内容
 - (1) 基礎的、総合的知識の修得のため、学部共通科目として、教養科目、語学科目、全学基本科目を配置する。
 - (2) 修得した知識を社会で活用できる能力を身につけるため、学部共通科目として、キャリア教育科目、特別企画科目、学部基本科目を配置する。

- (3) 経営、経済、法律、行政、政治、地域、観光に関連する、専門的知識を修得するため、各学科に学科専攻科目を編成する。
- (4) 学部共通科目・学科専攻科目を通じて修得した基本的・専門的知識を基に、実践的な力を身につけるための少人数教育であるゼミナールと卒業論文を必修とする。

2. 教育方法

- (1) 主体的・自律的な学修を促進するために、学科専攻科目では PBL やグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- (2) 協働のためのグループスキルを学修するため、少人数でのグループ学修を低年次から実施する。
- (3) ICT の活用能力を育成するため、e ラーニングシステムなどを学修に積極的に利用する。

3. 評価方法

ディプロマ・ポリシーに明示した学修成果の評価として、以下を用いる。

- (1) 形成的評価として、学修調査やカリキュラムルーブリックを活用して評価する。
- (2) 4 年間の総括的な学修成果について、卒業研究の成果、各種資格試験の結果などを用いて評価する。

経営学科

ディプロマ・ポリシー

経営（マネジメント）の観点から、グローバル社会の中で企業等が直面している諸問題に取り組み、その具体的な解決策を提示できる能力を備えた人材を養成します。

1. 基本的語学力、情報処理能力を修得し、経営、マーケティングおよび財務・会計に関する基礎知識について説明できる。（知識・理解）
2. グローバル化する社会にあつて、経営（マネジメント）という観点から課題を解決する調整能力を備えている。（思考・判断）
3. 実務に対応した専門性を高めようとする真摯な態度と意欲を身につけている。（態度）
4. 地域経済において直面する問題を解決するコミュニケーション能力とリーダーシップを備えている。（技能）

カリキュラム・ポリシー

1. 編成方針

ディプロマ・ポリシーで明示した学修成果を実現するため、教育研究上の目的に沿ったカリキュラムを編成します。全体の構造としては、社会科学一般の学問を基礎としながら、経営・マネジメント分野、商業・マーケティング分野、財務・会計分野の 3 つの専門分野の学科専攻科目を編成します。

2. 実施方針

- (1) 1 年次では、経営学の基礎的知識を身につけるために、講義と演習の授業を通して、知識・理解に重点を置いた教育を行います。
- (2) 2 年次では、専門分野の実践的な能力を身につけるために、講義と演習とグループ学習の授業を通して、思考・判断に重点を置いた教育を行います。
- (3) 3 年次では、実社会で求められる専門分野の高度な実践的な能力を身につけるために、講義と演習とグループ学習と少人数教育の授業を通して、態度に重点を置いた教育を行います。
- (4) 4 年次では、4 年間の学びの集大成のために、少人数教育やフィールドワークの授業を通して、これまでに獲得した知識・思考・態度等を総合した課題解決の能力に重点を置いた教育を行います。

法律行政学科

ディプロマ・ポリシー

法的思考能力（リーガルマインド）を基礎として、法制度を理解し、安心・安全な社会の実現のために活動している諸機関において活躍できる人材を養成します。

1. 法律・行政に関する基礎的知識を身につけ、社会の実態を広い視野から理解することができる。（知識・理解）
2. 法制度と行政をめぐる様々な現代的問題について、論理的思考に基き、適切な対応を提案することができる。（思考・判断）
3. 安心・安全な社会の実現に向けて主体的に取り組む姿勢と、多面的総合的に判断する公平性を身につけている。（態度）
4. 社会に貢献するための、法的思考能力（リーガルマインド）と政策立案能力を備えている。（技能）

カリキュラム・ポリシー

1. 編成方針

ディプロマ・ポリシーで明示した学修成果を実現するため、法律行政分野、社会安全分野の2つの専門分野で学科専攻科目を編成します。また、関連科目には、防災、リスクマネジメントに関する科目を配置します。

2. 実施方針

- (1) 学部共通科目では、大学で学ぶための基本的な技能と知識を身につけるための教育を行います。
- (2) 学科専攻科目のうち学科基本科目では、法学・公法・私法・刑事法の原論および政治学・行政学・地方自治論の基礎的科目の授業を通じて、法律および行政の学びの考え方と方法を身につけるための教育を行います。また、議論・意見交換のグループスキルを学修するため「基礎ゼミナール」によりグループ学習を実施します。
- (3) 学科専攻科目のうち法律行政分野では、基本法律科目の応用科目と社会の実態に即して法学を体系的・発展的に学修する科目の授業を通じて、社会の問題を解決するための論理的・合理的な考え方を身につけます。また、社会活動に直接実地に触れて学ぶ「法学演習Ⅰ～Ⅲ」によりプレゼン・コミュニケーションを身につけます。
- (4) 学科専攻科目のうち社会安全分野では、基本法律科目を踏まえ、犯罪情勢や地域の防犯・防災活動など社会安全に関連する幅広い科目の授業を通じて、地域を守るための論理や取組の考え方を身につけます。また、社会安全政策に係る実務の現場に触れて学ぶ「社会安全政策演習Ⅰ～Ⅲ」により効果的な社会安全政策の実現に向け提言できるような能力を身につけます。
- (5) 学科専門科目のうち関連科目では、経済学・哲学・倫理学等の広範な社会・人文科学により学際的な知識を学ぶとともに、防災、危機対応、災害救援等のリスクマネジメントの手法・能力を身につけます。
- (6) 「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、学生それぞれの関心・問題領域に応じた専門知識を深めるとともに議論・意見交換の仕方を学ぶためグループワークやディスカッションを取り入れた授業を行います。また「卒業論文Ⅰ～Ⅲ」では、大学の学びの集大成として、政策提案のできる研究テーマを設定し、課題の検証、政策立案等の実践的な能力を身につけるための授業を行います。

総合政策学科

ディプロマ・ポリシー

学際的・総合的観点から、地域の官民の諸機関において、地域社会が直面している諸問題に取り組み、その具体的な解決策を提示することのできる人材を養成します。

1. 政治・経済に関する基礎的知識を身につけ、各分野における政策形成の過程を理解している。(知識・理解)
2. 諸問題を考察し、実践的なプロセスにより問題解決に導く提案ができる。(思考・判断)
3. 地方を創生し活性化する必要性と重要性を認識し、地域社会の中でリーダーシップを発揮することで地域社会のニーズに応える姿勢を身につけている。(態度)
4. 多分野に関連し複雑化する諸問題に対し、グローバル的、総合的な視点から解決策を提案できる能力を備えている。(技能)

カリキュラム・ポリシー

1. 編成方針

ディプロマ・ポリシーで明示した学修成果を実現するため、政治・行政分野、経済・経営分野の2分野で編成した科目に加え、関連科目では、地方創生、観光に関する科目を配置します。

2. 実施方針

- (1) 学部共通科目では、大学で学ぶための基本的な技能と知識を身につけるための教育を行います。
- (2) 学科専攻科目のうち学科基本科目では、政治学、経済学など社会科学の諸分野の原論および応用科目の授業を通じて、総合政策学の考え方と方法を身につけるための教育を行います。また協働のためのグループスキルを学修するため、「基礎ゼミナール」の授業で少人数でのグループ学習を実施します。
- (3) 学科専攻科目のうち政治行政分野では、政治学や行政学を踏まえ、環境政策、情報政策など個別政策の知識と技能を身につけることにより、主として公的な立場（パブリック・セクター）における実践的な課題解決能力を養成する教育を行います。また「総合政策演習（政治・行政）」の授業では、グループディスカッションやフィールドワークなどのアクティブ・ラーニングを取り入れます。
- (4) 学科専攻科目のうち経済経営分野では、経済学や経営学を踏まえ、金融政策や財政政策など個別政策の知識と技能を身につけることにより、主として私的な立場（プライベート・セクター）における実践的な課題解決能力を養成する教育を行います。また「総合政策演習（経済・経営）」の授業では、グループディスカッションやフィールドワークなどのアクティブ・ラーニングを取り入れます。
- (5) 学科専攻科目のうち地方創生関連科目は、市民やNPO・NGOなども含めた多様なアクターについての知識と技能を習得することにより、協働によるまちづくり、地方創生を実践する能力を身につけます。
- (6) 学科専攻科目のうち観光関連科目は、観光やデジタルアーカイブなど地域資源の利活用を重視した分野の知識と技能を発展させることにより、地域発展のための能力を養成します。「観光ビジネス実務演習」の授業では、グループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを取り入れます。
- (7) 「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、学生それぞれの問題関心に応じた専門領域の知識を深めるため、グループワークやディスカッションを取り入れます。また「卒業論文Ⅰ～Ⅲ」では、学びの集大成として、研究テーマを自分で設定し、それまでに得た知識を実践的に活かせる力を身につけるための演習を行います。

ディプロマ・ポリシー

建学の精神に基づき、看護学の専門的知識と実践力を有し、保健・医療・福祉・教育等の場において、人々の健康な生活の保持増進に関わり、広く社会に貢献できる看護系人材を養成します。

1. 多様な価値観を認め、あらゆる人々を尊重する態度で倫理的に行動できる。(知識・理解、思考・判断、態度)
2. 自己を見つめ、主体的・自律的に行動することができ、専門職業人として看護学の発展に寄与していく姿勢を備えている。(思考・判断、態度)
3. 看護職の専門性を理解し、多職種による協働を実践するための基礎的能力を身につけている。(知識・理解、技能)
4. 看護を必要とする個人・家族・地域の諸課題に気づき、最善の看護をめざして根拠にもとづいた実践ができる。(知識・理解、思考・判断、技能、態度)
5. 複雑化する社会での健康課題に対応するために、グローバルな視野をもち、進歩する ICT を積極的に活用できる。(知識・理解、技能、態度)

カリキュラム・ポリシー

本学部のディプロマ・ポリシーに基づき掲げられたコンピテンシーを修得するために、以下のような内容、方法、評価方法での教育課程を編成します。

1. 教育内容

- (1) 1、2年次には、学部共通科目（教養科目、語学科目、全学基本科目、キャリア教養科目、特別企画科目）の履修により、「多様な価値観を理解する力」「グローバルな視点から思考する力」「学修を継続する力」「進歩するテクノロジーを積極的に活用する力」の基礎を育成する。
- (2) 学科基礎科目においては、＜人間の身体と生命科学＞＜人間のこころと行動科学＞＜人間の社会と環境科学＞の3分野の履修を通して、人間の身体とこころの健康に関する知識と、地域で生活する人々の健康を支える仕組みについて学び、「根拠に基づいた実践力」の育成につなげる。
- (3) 学科専門科目では、＜看護の基盤＞＜生涯発達と看護＞＜コミュニティと看護＞の分野ごとに講義、演習、実習を履修することで、「人と家族中心にケアする力」「チームで協働する力」「根拠に基づいた実践力」「内省する力」を育成する。また、4年次における＜看護の統合と発展＞の科目群の履修により、「問題解決し、現状を改善する力」を育成し、各コンピテンシーの深化を促進する。

2. 教育方法

- (1) 主体的・自律的な学修を促進するために、学科専門科目では PBL やグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- (2) 協働のためのグループスキルを学修するため、少人数でのグループ学修を低年次から実施する。
- (3) ICT の活用能力を育成するため、電子教科書やタブレット端末、eラーニングシステムなどを学修に積極的に利用する。

3. 評価方法

ディプロマ・ポリシーに基づき掲げられたコンピテンシーの評価として、以下を用いる。

- (1) 形成的評価として、学修調査やカリキュラムルーブリックを活用して評価する。
- (2) 4年間の総括的な学修成果について、OSCE、国家試験結果を用いて評価する。

カリキュラム・ポリシー

1. 編成方針

看護学科の学位授与方針を達成するために、以下のように、学部共通科目、学科基礎科目、学科専門科目を編成します。

学部共通科目は、教養科目、語学科目、全学基本科目、キャリア教育科目、特別企画科目から構成され、広範な視野やグローバルな視点を身につけるための教育、初年次教育、キャリア教育等を展開する。

学科基礎科目は、人間の身体と生命科学分野、人間の心と行動科学分野、人間の社会と環境科学分野から構成され、看護実践の基盤となる知識を身につけるための教育を展開する。

学科専門科目は、看護の基盤、生涯発達と看護、コミュニティと看護、看護の統合と発展の科目群から構成され、その中で各看護領域の知識に基づく技能を習得するための教育を展開する。

これらの教育を通して学位授与方針に基づき掲げられた9つの〈コンピテンシー〉の修得をめざす。

2. 実施方針

- (1) ディプロマ・ポリシー1. 【多様な価値観を認め、あらゆる人々を尊重する態度で倫理的に行動できる】を達成するために、学部共通科目では、教養科目を通して様々な学問分野の基礎を学び、人と人を取り巻く社会の多様性や価値体系を教育します。学科基礎科目では、人間のこころと行動科学分野の学修を通して、人の心理社会的発達や行動心理などを教育します。学科専門科目では、看護の基盤の学修を通して看護学の概論や倫理について、また生涯発達と看護の学修を通して、各分野の看護学の基礎を教育します。さらに、コミュニティと看護の学修を通して、異文化を含めた地域における価値観について教育します。

これらの教育を通して、コンピテンシー〈人と家族を中心にケアする力〉、〈多様な価値観を理解する力〉を養います。

- (2) ディプロマ・ポリシー2. 【自己を見つめ、主体的・自律的に行動することができ、専門職業人として看護学の発展に寄与していく姿勢を備えている】を達成するために、学部共通科目では、全学基本科目の学修を通して、大学での学修の基本となる文章表現法やグループ討議の方法を教育します。キャリア教育科目の学修を通して、職業人としての主体的な姿勢や自律性について教育します。学科専門科目では、看護の基盤、生涯発達と看護、コミュニティと看護、看護の統合と発展の各科目群における臨地実習を通して、看護専門職としての考え方や態度を教育します。また、看護の基盤の学修では、自らが目指す看護職の理解や基本的なコミュニケーションを、看護の統合と発展の学修では、看護職業人の役割や責務について教育します。

これらの教育を通して、コンピテンシー〈内省する力〉、〈学修を継続する力〉を養います。

- (3) ディプロマ・ポリシー3. 【看護職の専門性を理解し、多職種による協働を実践するための基礎的能力を身につけている】を達成するために、学科基礎科目では、人間のこころと行動科学分野では、医療現場での問題解決のための多職種との協働について、グループ学修を通して、教育します。学科専門科目では、看護の基盤の学修を通して、看護組織のマネジメントや協働を教育します。また生涯発達と看護、コミュニティと看護の学修では、臨地実習を通して、多職種協働の実際を教育します。さらに、看護の統合と発展の学修を通して、地域での他職種間マネジメントと協働について教育します。

これらの教育を通して、コンピテンシー〈チームで協働する力〉を養います。

- (4) ディプロマ・ポリシー4. 【看護を必要とする個人・家族・地域の諸課題に気づき、最善の看護をめざして根拠にもとづいた実践ができる】を達成するために、学科基礎科目では、人間の身体と生命科

学分野の学修を通して、看護実践の基盤となる人体構造や病態などの医学知識を、また人間の社会と環境科学分野の学修を通して、公衆衛生や保健福祉行政について教育します。また、看護の基盤の学修を通して、看護における情報の意味や評価法について教育します。生涯発達と看護の学修では、アクティブラーニングを取り入れ、様々な看護分野における対象の焦点化した情報収集と解釈について教育します。さらに看護の統合と発展に関する学修を通して、看護学のさらなる発展や質改善への取り組み方法を教育します。

学科専門科目では、看護の基盤、生涯発達と看護、コミュニティと看護、看護の統合と発展の各科目群において、特有の臨床判断や看護技術の学修および臨地実習を通して、実践力を教育します。

これらの教育を通して、コンピテンシー〈問題解決し現状を改善する力〉、〈根拠に基づいた実践力〉を養います。

- (5) ディプロマ・ポリシー 5.【複雑化する社会での健康課題に対応するために、グローバルな視野を持ち、進歩する ICT を積極的に活用できる】を達成するために、学部共通科目では、語学科目の学修を通して、他国の文化や考え方を、全学基本科目の学修を通して、ICT の活用法を教育します。学科専門科目では、看護の基盤、生涯発達と看護、看護の統合と発展の各科目群において、電子教科書やタブレット、e-learning システムを用いて、情報検索やプレゼンテーションスキルを教育します。看護の統合と発展の学修において、地域での研修を通してグローバルな視点を、海外研修を通してグローバルな視点を教育します。

これらの教育を通して、コンピテンシー〈グローバルな視点から施行する力〉、〈進歩するテクノロジーを積極的に活用する力〉を養います。